

阿寒地方の針葉樹林を支えるものは？

—阿寒富士玄武岩溶岩上に最初に侵入した植物の花粉と火山灰による追跡—

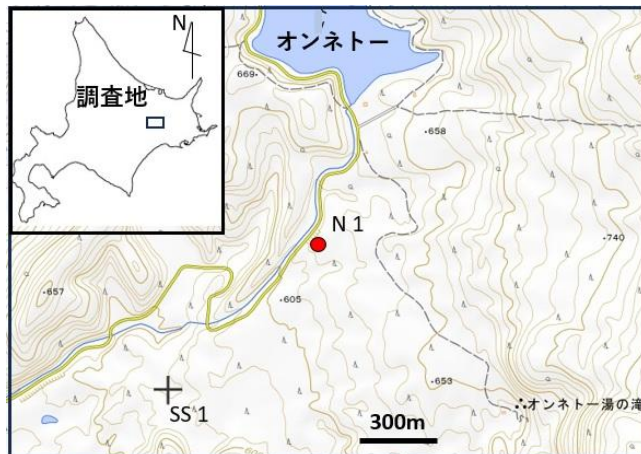
発表者：星野フサ・乙幡康之・萩原法子・川内和博・春木雅寛

はじめに

阿寒摩周国立公園オンネトーの南側に広がる阿寒富士西麓には道道 664 号付近には常緑針葉樹のアカエゾマツ優占林が広がる。そこは阿寒富士からの玄武岩質溶岩流による凹凸の激しい地形で凹地では多数の風穴がある。この針葉樹林を支えるものは何かを考察したい。

調査地と現地調査 アカエゾマツ優占林は林床にはイソツツジ、コケモモなどの低木類や蘚苔類が多くみられる。現地調査は乙幡・川内（2025）の植生調査地でおこなわれた。

〔N1〕地点（43° 22′ 32.61″ N、143° 58′ 7.46″ E、海拔 636m）はアカエゾマツ優占林の中で林床にイソツツジが優占する箇所で花粉分析用の試料 8 点を採取した。ここから南西に約 600m離れたトドマツが上層に混生し、林床にハクサンシャクナゲ、イソツツジが多くみられる地点を〔SS1〕地点（43° 22′ 14.22″ N、143° 57′ 41.08″ E、海拔 590m）として 11 試料を採取した。



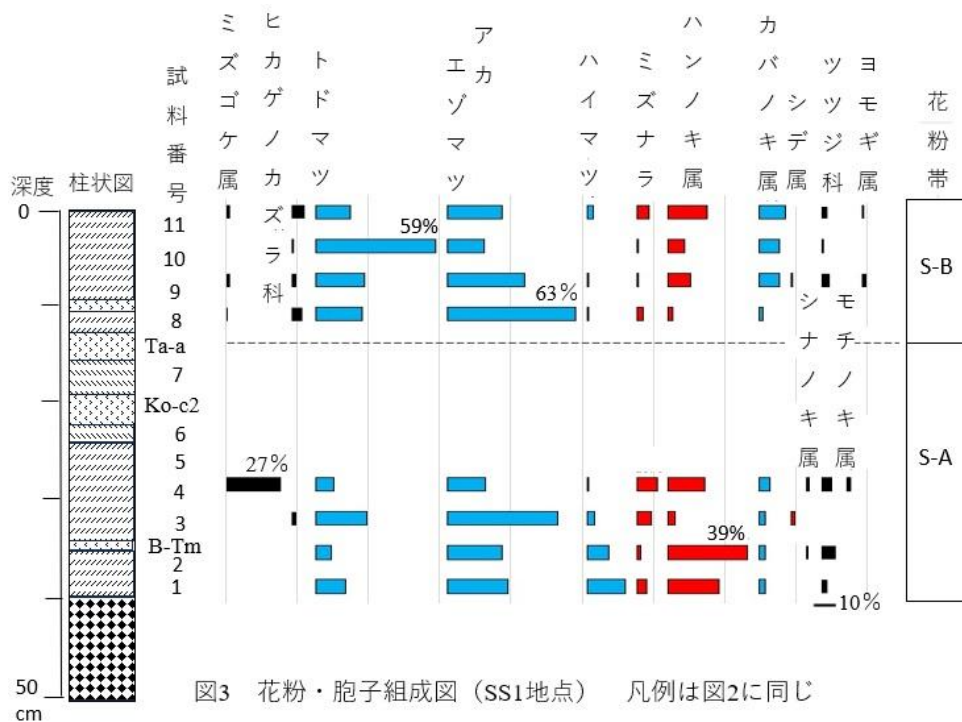
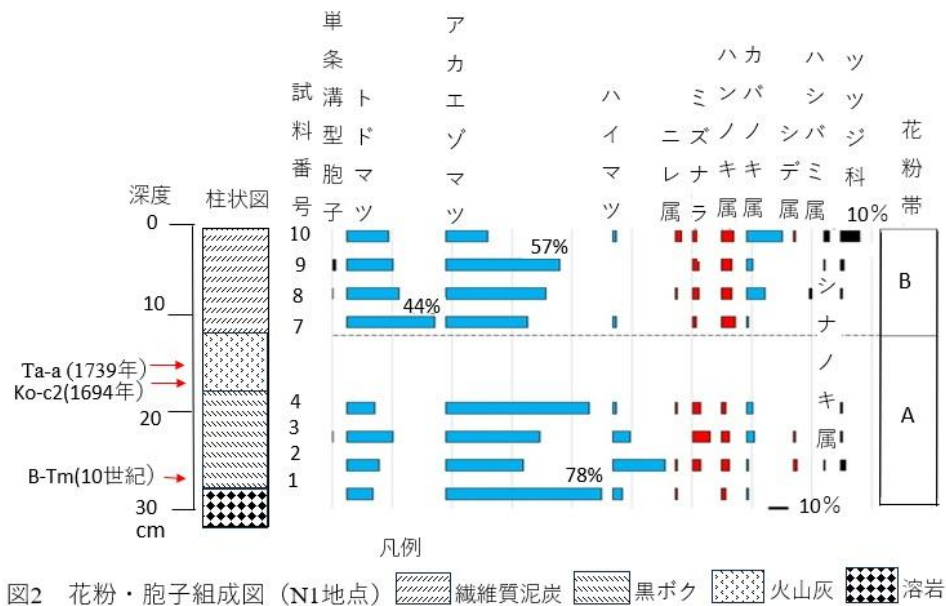
火山灰

雌阿寒岳周辺では下位から B-Tm（10 世紀）、Ma-b（10 世紀）、Ko-c2（1694 年）、Ta-a（1739 年）、Ko-c1（1856 年）火山灰が確認されている（徳井 1989、和田・勝井 1999、和田・佐藤 2024、北海道火山灰命名委員会 1979）。阿寒富士玄武岩溶岩上に層厚 30～40cm の土壌

が発達し、火山灰は層位及び鉱物等の特徴から B-Tm（10 世紀）、Ko-c2（1694 年）、Ta-a（1739 年）に対比された。

花粉分析

花粉は KOH、HCL、アセトリシス、塩化亜鉛重液の順に処理し、グリセリンゼリーでプレパラートに封入した。花粉・胞子は Zeiss アキシオスコープ光学顕微鏡 1000 倍で同定した。100 個まで数え、各植物は邑田・米倉（2012）による植物進化の順を考慮した順番に並べ、N1 地点の組成は図 2 に、SS1 地点の組成を図 3 に示した。



考察

両地点とも阿寒富士玄武岩溶岩の侵入後、堆積した火山灰の上に常緑針葉樹のアカエゾマツなどの飛散種子の定着、樹林の成立へと進んだとみられる。た

だ常緑針葉樹類は耐陰性は高いものの陽樹であり、世代交代は難しい。一方、林床は安定的で、N1 地点でツツジ科花粉が最上部で 10%産出は被度 5 のイソツツジ由来と考えられる。SS1 地点では B-Tm (10 世紀) 直下でハンノキ属花粉が 37%産出し、その後、ミズゴケ属 27%の出現となり N1 地点とは趣きを異にしている。

謝辞：現地調査では塚田晴朗、宮坂省吾両氏のご協力を得た。深く感謝申し上げる。